

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【2年目】

報告日 令和7年 11月 日

P T A名		静岡県立掛川特別支援学校 P T A				
学校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害	<input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	269名				

1. 使用状況

寄贈物品名	ハンドプレス機（抜き型用工具）
使用学年及び人数	高等部革工芸班、クラフト班 生徒25名
使用頻度	週2回程度（年間80回程度）
使用状況	高等部革工芸班で、一枚革から製品の形への切り出しを行っている。 高等部クラフト班で、製品のワンポイントにクラフトバンドを切り抜いている。
物品の使用による変化や効果	革工芸班では、昨年度より使用してきたことで、生徒たちも使用方法に慣れ、より自分たちで考えて切り出す枚数や革を余らせないように切り出すことができるようになった。また、実際に一枚革から自分たちで切り出しを行うため、一つの製品にどのくらいの量の革が必要なのかを目の当たりにすることで、どの工程でも失敗しないように作業に取り組んだり、余分に革を切り出さないようにするなど、革の価値を理解して作業に取り組むことができるようになった。 クラフト班では、製品のワンポイントにプレス機を使用し、本来は教員や生徒がクラフトバンドをハサミで切って作業していたものが、プレス機を使用することで、大きさが整い、安全に、量産することができるようになった。
今後の活用の見通しや課題	安全かつ容易に革を切り出すことができることで、どの生徒も製品に携わることができるようになった。生産管理もある程度自分たちで考えてできるようになっている。今年度は、クラフト班も製品のワンポイントに使用するために、プレス機でクラフトバンドを切り抜いて使用するなど、使用の幅も広がってきた。 様々な型で実際に革を切り抜いてみることで、新製品のアイデアについて具体的に生徒たちと考えることができるため、今後も、子どもたちの主体性を引き出す学習の補助具として活用していきたい。
その他希望や所感など	

2. 活用の様子



どんな生徒でも切り出しの作業ができます。

今年度作った製品です。(クラフト班:コースター、革工芸班:ネームホルダー、コードどめなど)



販売会の様子です。たくさんの製品を販売することができました。

